

研究課題「肺癌遺伝子解析研究」に関する情報公開

1. 研究の対象

2004年以來現在までに秋田大学医学部附属病院で肺癌の手術切除をされた方。

2. 研究目的・方法

あなたが当院で手術を受けた肺癌の検体については、病理組織診断のために一部が使用されますが、残った部分は凍結保存（マイナス80度）、あるいはホルマリン固定パラフィン包埋ブロックとして保存されます。この保存検体からDNAあるいはRNAを抽出し、肺癌細胞における遺伝子の変化（変異、欠失、増幅、過メチル化等、体細胞レベルで生じたゲノム異常）と遺伝子発現の変動を解析し、それらのがんの進行期などの臨床病理学的情報と対比検討することで肺癌の発生・進展の分子機構及び特性を遺伝子レベルで明らかにすることを目的とする研究です。

方法として、保存検体から抽出したDNAあるいはRNAから、次世代シーケンスと呼ばれる、ほぼすべての遺伝子について解析が可能な新規の方法や、サンガーシーケンスと呼ばれる従来から用いられる、特定の遺伝子について解析が可能な方法等を用います。これにより、どのような遺伝子の変化が肺癌の発生進展に関わるかを明らかにし、肺癌の新たな診断法や治療法の開発につなげていきたいと考えています。

研究期間は2014年12月15日より2022年3月31日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- 肺癌の手術で切除された肺のがん組織および肺の組織の凍結保存検体あるいはホルマリン固定パラフィン包埋ブロックから抽出されたDNAやRNA等。
- 臨床情報：年齢、性別、喫煙歴、病理所見、手術後経過等

4. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関への試料・データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当施設の研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

（研究責任者）

秋田大学大学院医学系研究科器官病態学講座・教授・後藤明輝

（共同研究者）

秋田大学大学院医学系研究科呼吸器・乳腺内分泌外科学講座・教授・南谷 佳弘

国立がん研究センター研究所ゲノム生物学研究分野・分野長・河野隆志

浜松医科大学腫瘍病理学講座・教授・梶村春彦

国立遺伝学研究所人類遺伝研究室　・教授・井ノ上逸朗

公益財団法人佐々木研究所腫瘍ゲノム研究部・部長・中岡博史

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出
ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

秋田県秋田市本道1-1-1 秋田大学大学院医学系研究科 器官病態学講座

教授 後藤明輝（研究責任者） 電話 018-884-6064

研究代表者：秋田大学大学院医学系研究科器官病態学講座・教授・後藤明輝

情報管理責任者：秋田大学大学院医学系研究科器官病態学講座・技官・工藤幸紹

-----以上